



地域活性型 事例②

高松市（指定団体：特定非営利活動法人TICO）

カンボジア国救急医療に係わる 研修コース・試験制度の構築と市民への 応急処置法の普及事業

実施期間：2022年9月～2025年9月

対象地域：バタンバン州

#救急医療

#人材育成

#市民啓発

団体概要

TICOは徳島県の医師を中心に構成されるNPOである。ザンビアやカンボジアをはじめとする途上国において、医療技術移転や農村開発などの国際協力活動を展開している。途上国の貧困に起因する課題に対し、地域間のつながりを重視しながら、技術や知識の移転に積極的に取り組んでいる。

プロジェクト目標

カンボジアの事情にあった継続的な研修コースが構築され、小規模病院で適切な初期対応ができ、かつ必要時は適切に中核病院に転院搬送できる人材が養成される。

事業概要

カンボジアの保健医療には、特に救急分野において実情に即した教育が行われなかったために適切な処置ができないことや、教材や研修プログラムが未整備で人材が育たないといった課題がある。そこで本事業では、救急救命に携わる人材が知識と技術を習得できる研修コースとインストラクター認定制度の構築、実情に即したクメール語の教材作成、救急医療資機材の整備を進め、救急医療の改善を目指した。あわせて市民への応急処置法や生活習慣病予防の啓発を目的に市民向けワークショップを実施。教材は保健省の認可を受け、カンボジア全土での活用が奨励されるに至った。

背景

実情に合わない医学教育が招く救命の課題

カンボジアでは交通事故死者数の増加が課題となる中、救急分野の人員・基本的資機材・研修機会不足が顕著であり、搬送中に適切な処置が行われず命を落とすケースも少なくない。その背景には、英語や仏語の翻訳教材に依存し、実情に適合していない医学教育の課題がある。さらに、「傷に魚醤、火傷に牛糞」など不適切な民間療法の活用や生活習慣病の増加も見られ、住民が命を守るための正しい応急処置・予防知識の普及が急務であったことから、本事業開始に至った。

主な活動と成果

活動① モデル地区における救急医療の実践、指導人材の育成

バタンバン州のモデル地区で、救急医療活動の実践を目指した研修を11回実施。また、成績優秀かつ意欲がある人材を日本に招聘し、約2週間の研修を実施した。

成果：救急医療を実践できる医療従事者が50名以上養成された。また、救急医療活動を指導できる医療従事者が14名となった。

活動② カンボジアの実情に合った救急医療研修・教材の開発、資機材の配備

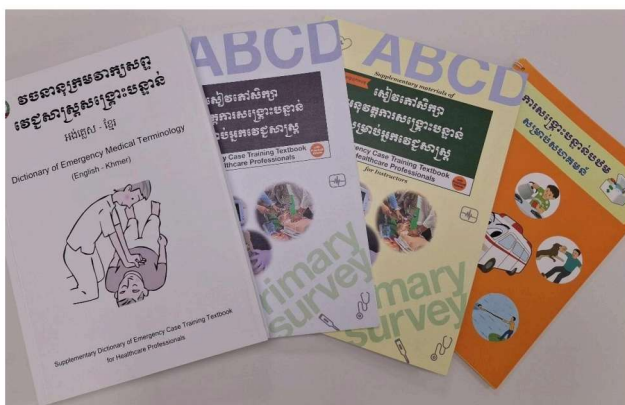
救急トレーニングプログラム8項目と7種類の救急対応教材、対応動画と医学用語辞書をそれぞれクメール語で整備した。プログラムの継続実施のための資機材を配備し、インストラクター認定制度により、指導人材を育成した。

成果：2025年7月時点でバタンバン州内の公立病院に資機材が配備・適切に管理されていることを確認し、同年8月には研修用資機材も整備した。作成した教材は保健省の認可を受け、今後は病院局研修での活用が見込まれる。

活動③ 自ら命を守るための住民向け啓発活動の実施

住民向けの応急処置と保健・予防ハンドブックを作成。救急要請先を裏表紙に掲載したほか、視認性の高いオレンジ色を表紙に採用したり、動画へアクセスできるQRコードを付すなど実用性を高めた。

成果：14,000冊以上のハンドブックが市民に配布された。保健局、病院スタッフ、現地NGOと連携し、育成されたインストラクターによる住民向けワークショップを260回実施。参加した住民の理解度は全項目で90%を超えている。



インパクト

医師たちの意識の変化「自分たちが救わなければ」

「バタンバン州の救急に目に見える明らかな変化が現れた」と保健局・州病院関係者が語る。研修を受けた医師からも、「高度な医療機器がなければ救えない」と諦めていた症例にも「自分たちにも救えるかも」「救わなければ」と意識が変化したとの声が寄せられ、本事業が医療従事者の意欲を大きく高め、実践力の向上につながったことが示唆される。またクメール語による救急対応テキスト、動画教材、そして2,906語を収録した医学用語辞書の整備は、母国語で医療を学べないという根本課題に正面から応える成果である。保健省から全土での活用を奨励すべきと絶賛され、同省による認可を受けた。



学び・教訓

オンライン・対面を問わない、多様な学びの場を構築

本事業では、SNSを関係者間のコミュニケーション手段として活用したほか、本邦研修参加者や日本の医療従事者を含むプロジェクトごとのグループを作成し、情報共有を通じて隙間時間での活動参加を促進した。研修ではQRコードを用いた資料配布やアンケート、プレテストも実施したことで、効率的・効果的な運営につながった。また、前フェーズ対象地であるスヴァイリエン州での事業成果を活かし、カンボジア国内スタディツアーを実施した。国内の先進・成功事例に触れる機会を設けたことで、参加者・受け入れ側双方に好影響をもたらした。

今後の展望

カンボジアの力で広がる救急医療の未来

今後は、整備した研修プログラムや教材、認定制度を基盤に、カウンターパートと医療機関が主体となって研修を継続・拡大していくことが見込まれる。すでに州内ではインストラクターが自ら研修を実施しており、新たな指導者の養成も計画されている。作成された教材は保健省の認可を得て全国での活用が見込まれるほか、ワークショップ参加者がハンドブックを家庭で共有することで、緊急時の適切な処置や生活習慣病予防の知識が地域へ波及していくことも期待される。

事業評価報告書：

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/kusanone/partner/n_files/cam_31_p-zigyoyou.pdf

事業制作物（トレーニング用映像）：

[https://www.youtube.com/playlist?](https://www.youtube.com/playlist?list=PL9U6H1s81DKU0MPzpbEuWV7995yLLB&si=S0smDsrH0CghKXkU)

[list=PL9U6H1s81DKU0MPzpbEuWV7995yLLB&si=S0smDsrH0CghKXkU](https://www.youtube.com/playlist?list=PL9U6H1s81DKU0MPzpbEuWV7995yLLB&si=S0smDsrH0CghKXkU)

事業制作物（医学用語辞書）：

<https://drive.google.com/file/d/1353a0vAuWG337oj0Cee0XXmKdvszyz6c/view?usp=drivesdk>